

開講科目名 / Course	身体観察技術論	
ターム・学期 / Term・Semester	2024年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、堤 恒貴	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	解剖生理に基づき、看護の展開につながる身体的な情報を収集する方法を学び、身体観察技術を身につけることを目的とする。人が生きていくために必要な「恒常性の維持」と「日常生活行動」を枠組みとし、各技術の背景にある原理や科学性を理解しながら技術演習を行う。	
到達目標	1. 身体観察の意義と基礎的手技（問診・視診・聴診・触診・打診）について説明ができる。 2. 正確な情報を得るために、身体観察技術を正しく実施することができる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きを8回実施する（計15回）</p> <p>01. オリエンテーション、身体観察の基本的な手技の手順</p> <p>02-03. 恒常性の維持（体温・呼吸）：体温測定、呼吸器の観察</p> <p>04-05. 恒常性の維持（体液循環(1)）：脈拍測定、経皮的酸素飽和度の測定、末梢循環の観察</p> <p>06-07. 恒常性の維持（体液循環(2)）：血圧測定、心音の聴取</p> <p>08-09. 恒常性の維持（脳神経）：意識レベルの観察（JCS/GCS）、瞳孔の観察</p> <p>10-11. バイタルサイン測定のまとめ</p> <p>12-13. 筋・骨格系：座位・立位・歩行や日常生活動作に必要な筋力と可動域</p> <p>14-15. 消化器系：「食べる」「排泄する」に必要な口腔内、腹部の観察</p> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による講義はオンデマンド配信とし、科目開講期間中、視聴したいときに繰り返し視聴できる。</li> <li>・自己学習力の育成、限られた時間を効率よく活用するために「事前課題」を課す。</li> <li>・事前課題は演習で使用使用する課題事例に関する個人ワークとe-learning（Nursing-Skills）とする。</li> <li>・演習時間内はグループ演習とし、学生同士で協力しながら課題事例に取り組むことで理解を深める。</li> <li>・いろいろな考えや視点に伴う方法の多様性を理解するために、他のグループの事例展開を共有する。</li> <li>・グループ演習の成果については、ICT（SIM System、Google Workspace）を活用して、客観的な評価と課題の明確化につなげる。</li> <li>・人が生きていくために必要な「恒常性の維持」と「日常生活行動」を観察の枠組みとし、看護を学び始めた1年次生にも理解しやすい構成としている。</li> </ul>	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に提示する事前課題を行う。（10h）</li> <li>・事後学修：技術習得にむけ、時間外の反復学習を推奨する。方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、教員による技術指導も可能である。（2h）</li> </ul>	
評価方法と評価割合	<p>（1）事前課題（2）実技試験（3）授業態度を総合して評価を判定する。</p> <p>配分は（1）事前課題20%（2）実技試験60%（3）授業態度20%とする。</p> <p>実技試験6割未満、あるいは（1）～（3）の総合点が6割未満である場合は、単位認定不可とする。</p> <p>授業態度はグループ演習での授業参加度や、学生デモンストレーションへの参加度を評価する。</p> <p>原則100%出席とし、欠席・遅刻は減点対象となる。</p> <p>20分の遅れは遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。</p> <p>また、遅刻3回で欠席1回とみなす。</p> <p>* 詳細は別途資料配布</p>	
テキスト	フィジカルアセスメント完全攻略Book（慧文社）	
参考書	日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態学の枠組みを用いて（日本看護協会出版会）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 堤恒貴：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の臨床経験を活かし、身体観察技術の原理や科学性の理解、技術の習得を促進する。	